

カトリック 仙台教区報

2009年11月1日 No.190
発行
カトリック仙台司教区
980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378
発行任広報委員会
URL <http://sendai.catholic.jp/>

第95回 世界難民移住移動者の日 《インターナショナル・ミサ》 「わたしはあなたがたを友と呼ぶ」

9月27日(日)、元寺小路教会

で仙台中央地区6教会合同の
インターナショナル・ミサがさ
さげられ、500人ほどが参加した。
ミサのテーマは、日本カトリ
ック難民移住移動者委員会委
員長 谷大二司教のメッセー
ジの表題「わたしはあなたがた
を友と呼ぶ」(ヨハネ15・15参照)
からとられた。

ミサは、エメ・ボルデュック
神父の主司式で中央地区担当
司祭の共同司式で行われた。入
祭の歌は、「ラウダー・テ・オムネ
ス ジェンテス(すべての人
よ)」がラテン語で歌われた。
第一朗読はハンゲル、第2朗読
はタガログ語、福音は日本語で
読まれ、説教では、エメ神父が
日本語、英語、フランス語、ス
ペイン語の順で段落ごとに分
けて話された。ミサ式次第は、
日本語、ハンゲル、英語、タガロ
グ語、スペイン語で書かれている。
共同祈願は、六カ国の人が、民
族衣装を着て自分の国のことば
で唱えた。
奉納では、民族衣装をまとった
子どもたちが、鉢植えの花を奉納



語で歌われ、閉祭では「主は水辺

し祭壇の周り
を飾った。

聖体拝領で
は、「アメイジ
ング・グレイ
ス」が、各国

約1万人、アジア系が最も多く8
500人、そのうち中国人が半数
と韓国が3分の1を占め、次にフ
イリピンが400人と多い。北米は約
600人のうち、米国430人、カナダ120
人、他となっている。中南米は、
メキシコ、ブラジル、コロンビア、
ペルー等で、計140人。
ヨーロッパ530人、アフ
リカ120人となっている。
(いずれも概数)

信徒数ははつきり
しないが、約35万国の
信徒が教会に來てい
る。
教皇ベネディクト16
世は、「移住者であり、
『異邦人の使徒』である
聖パウロ」と題したこの
日のメッセージで、「共
同体はキリストと一
つになればなるほど、
隣人をより気遣うよ
うになり、批判、軽蔑、
中傷を慎み、お互いを
受け入れ合うことに
自らを解き放つので
す。…すべての人が区
別や差別をすることなく心から
兄弟愛に生きるように」と、聖パ
ウロの模範に倣って文化や言語
の壁を越えて互いに同じ父のもと
に兄弟として愛に生きることを促
している。

生命の泉

▼夏の暑さが収まる頃にな
つても昔のように収穫を感
謝するお祭りの賑わいなど
あまり聞こえて来ない。肌寒
い風を避けて窓を閉めると
急にさびしさが身に沁みて
くる。▼秋にこのような気持ちに誘
われるのは自然界の単調な響きか
ら来ると聞いたことがある。音もな
く降る秋の雨は軒下からしずくと
なって響く。また枯葉がちよつと冷
たくなつた風に舞っている物音も
いかにも秋らしい。▼この単調な音
は私たちの心を深くする。かつて兵
庫県知事を務めた坂本勝という方
が旧制二高の学生であったころ豊
屋丁教会に通つてフランス語を学
んだ。そのモンタグ師の紹介で秋
深まりかけた頃のトラピストに滯
在する経験をした。日中は誰も訪ね
て来ない沈黙の園で単調な秋雨と
強い風に舞う枯葉の音だけを聞いて
いた。夕方、食事が終わった頃決
まって岡田プリーエ院長様がやっ
てくる。そして津軽湾を望む窓から
暮れてゆく景色を一人で黙つて眺
めていた。院長様は本当に寡黙だつ
た。時に思い出したようにポツンと
「夜空に瞬く星の輝きはダイヤモンド
よりずっときれいな」というよう
なことを言う。一日中静寂の中にい
た身にはその言葉にこころが洗わ
れる様だつたと書いている。▼「あ
なたの天を、あなたの指の業をわた
しは仰ぎます」(詩8・4)そして思
う「人とは何者なのでしょう」
(守)

2011年仙台教区大会開催決まる

教区宣教司牧評議会から

毎年春分の日と秋分の日、2回開催される宣教司牧評議会が、9月23日(秋分の日)、教区センター2階会議室で行われた。

今回の議題は、①今年度の仙台教区研修会と②教区大会について。

教区研修会は、今年で8回を数える活性化研修会がその名称を「教区研修会」とし、一歩踏み出した形で「教区の現状理解と積極的な協力とは」をテーマ

教区大会は、2011年に仙台教区として75周年、函館教区時代から120年を数えるのを機に、これまでの教区の歩みを神に感謝し、神の恵みと導きに希望を置く1年とする趣旨で行われることになった。

2011年7月3日(日)の「開会のミサ」から始まり、2012年7月1日(日)の「閉会のミサ」で終わる期間、開催の形をとり、各県ごとの集いや、教区内の諸団体に集いの企画をしてもらい、教区内各地で様々なイベントを開く予定。

企画・準備委員会を司祭評議会から2名、宣教司牧評議会から2名、修女連から1名、司教直任3名(女性1名、青年2名)の計8名で構成し、企画立案が確定したら、実行委員会に移行することにした。

教区司祭団黙想会

9月28日～10月3日

毎年9月最終の月曜日から1週間、教区司祭団恒例の黙想会が開かれる。今年も、函館市郊外のトラピスト修道院に16名が集い、大院長吉本邦彦師の指導で行われた。師は、今年9月23日に祝福されその任に就いたばかり。トラピストの大修道院長は指輪・ミトラ・バクルス(杖)を持ち司教職と同等の権限を持っている。

教区大会に向かう準備の一つ

司教 マルチノ平賀徹夫



「だれよりもまず司教および司祭、それから神の民全体に、すなわち兄弟姉妹の皆様に申し上げます。すべての民をわたしの弟子に下さい(マタイ28:19)というキリストから委ねられた宣教の任務を、一人ひとりの中で一層強く意識してください」これは今年の「世界宣教の日」の教皇様のメッセージの言葉です。この「キリストから委ねられた宣教の任務」という言葉を目にしたとき、「そうだ、確かにこれを一層強く意識する必要があるんだよな」と、あらためて思われました。それも「世界宣教の日」だけでなく毎日のことだ、と。でも同時に、どのように表せばいいのだろう、どのように表すことができるだろう、とも。内向きではなく世界に向けて。

先日、信式である教会を訪問したとき、ミサ後の話会で一人のご年配の方が「昔は、信者は皆で、一軒一軒家庭訪問して教会を宣伝したり、人を教会に連れてきて神父様に紹介したりしたものだが、今はその熱心さがすっかり無くなったようだ」と言われました。確かにそのようで、たとえば「エホバの証人」の人たちにおをわれてしまったようです。そしてその訪問はがられているように聞こえてくるものだから、こちらは引いてしまったということかもしれない。それでは、わたしたちはキリスト者の任務をどのような仕方でも果たしていったらいいのか。これはいつまでもわたしたちの話し合いの大きなテーマであり続けるでしょう。

わたしたちの教区が「仙台教区」という今の名称となってから75年、その前の「函館教区」設立の時(1891年)から数えると120年という時を迎えるのを機に、2011年に教区大会を開くことが計画されています。この教区大会が、共に「キリストから委ねられた宣教の任務を一層強く意識する」時、そしてその意識を持って新しく一歩を踏み出す大きな恵みの時となるように準備したいものです。

「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行つて、しばらく休むがよい」(マルコ6:31)と言われた主のみことばを

司教日程

11・12月

- 11・2・3 部落差別人権委員会(東京)
- 6・7 東北カトリック教育研修会(仙台)
- 8 岩手沿岸ブロック教会交流会(遠野)
- 9 男女修道会・教区協働研修(大宮)
- 10 司祭評・定例会、司祭団役員会
- 12 教区人権を考える委員会
- 13 磐梯町・雪の聖母修道院
- 15 教区研修会・郡山
- 16 部落差別人権委定例会
- 17 20日韓司教交流会(大阪)
- 22 福島カトリックグローリア会20周年(いわき)
- 23 仙台地区青年会黙想会
- 28 社会司教委員会名古屋シンポジウム
- 30 5・12・1 司祭のつどい
- 12・5・6 5み言葉を深く味わう黙想会
- 10 社会司教委員会
- 13 教区研修会・青森
- 24 主の降誕(元寺小路教会)
- 25 主の降誕(元寺小路教会)

りがたく感じさせていただきました。



カトリック学校のアイデンティティを求めて 日本カトリック教育学会仙台で開催

日本カトリック教育学会（田畑 邦治会長）第 回全国大会が「カトリック教育における〈連携〉の可能性を探る―アイデンティティの再確認を求めて」をテーマとして9月4日（金）6日（日）、仙台白百合女子大学【写真】（仙台市泉区本田町）および仙台白百合学園中学・高等学校（仙台市泉区紫山）の2つのキャンパスを会場にして開催されました。多くのカトリック学校が存続の危機を感じている状況にあつて、あらためてカトリック校が提供するカトリック教育とは何か、1校単独で苦しむのではなくカトリック学校としての連携が模索されるべきではないのか―こうした意識から、アイデンティティと連携という二つのキーワードをもとにこのテーマが生まれました。



4日（金）夕方からは裁判員制度をめぐる問題を含めた3つのテーマに分かれてラウン

カトリック教育の可能性と豊かさを広げていく希望が見出せたように思います。

大会最後は、多くの大会参加者が聖堂に集まり、平賀徹夫司教と高祖敏明上智学院理事長ら学会員の司祭たちとの共同司式による歌ミサ。このミサのなかに、カトリック校としてのアイデンティティと連携の源泉を、お互いに感じられたのではないかと思えます。特筆すべきは、平賀司教には全日程ご参加いただいたことです。カトリック教育を考えていく者には大きな励みでした。参加者総数は昨年度大会（於・南山大学）の 数名を上回る総数 名でした。（東仙台教会 宮崎 正美）

ドテーブル、5日（土）は仙台白百合女子大学1号館にて、森一弘司教による基調講演、午後7時の研究発表と活発な質疑応答、学生会館ステラマリス（海の星）にて懇親会。仙台名物牛タンをはじめ三陸の海の幸に参加者が舌鼓を打つなか、土倉相氏（仙台白百合学園中学・高等学校教頭）と原田雅樹神父（仙台白百合女子大学）がフルート演奏を披露。6日（日）は仙台白百合学園中学・高等学校に会場を移し、大会テーマの下で、佐々木哲夫氏（東北学院大学教授、日本基督教団正教師）、阿部和彦氏（仙台白百合学園中学・高等学校教頭）、佐井総夫氏（青森明の星中学・高等学校教諭、本町教会信徒）、細渕誠一氏（つくしの会児童合唱団代表・仙南合唱連盟理事長、大河原教会信徒）の4名の方々によるシンポジウムを展開しました。大会全体を通して、カトリック学校の危機に対する「特効薬」が得られたわけではないとしても、森司教の「カトリック学校に奉職する教職員のための養成塾」は一つの方向性を与えてくれるものであるし、シンポジウムを通して

仙台教区の殉教の遺産を大切に 「殉教地大籠を守る会」発足

江戸時代の初期、多くの殉教者を出した岩手県藤沢町大籠と、宮城県東和町米川は、仙台教区のみならず日本の教会にとつてもかけがえない信仰の遺産の地。次の時代にこの殉教の地の歴史と信仰を残したいと有志たちが立ちあがった。



10月4日（日）午後3時半、大籠教会の聖堂

に信徒と現地の人たちが集まった20数名は、平賀司教と共にミサをささげ、「殉教地大籠を守る会」を発足させた。今からおよそ15年前、車での旅行の途中、この地に立ち寄った北仙台教会の信徒夫妻は、この地の不思議な魅力を感じる一方、大籠教会が無人工化し草が生い茂っているのが気になった。近くの教会の司祭、一本杉の3名の信者仲間と共に教会内部の清掃や周辺の草刈を始めるようになった。年に2・3回定期的に大籠教会を訪ね、教会周辺や、キリシタンが隠れてミサをささげていたと言われる洞窟までの林道の草刈りを続けた。現地の人や、大籠キリシタン歴史館の館長やボランティアで案内をしている人たちとも交流が深まり、ここ数年前から仙台の信者仲間が協力するようになり、その思いの輪が広がっていった。しかし、個人的な活動では限界があり、傷みの進んだ教会の修復には、それなりの資金も必要になる、仙台教区の承認も必要となることから、今回この会を立ち上げることとなった。会は、平賀徹夫司教を最高顧問に迎え、顧問・高橋 昌神父、会長 佐野賢郎（北仙台教会）、副会長 佐藤憲一（米川教会）と事務局 長・幹事12名、事務局をNPO法人 萌友内（TEL022-719-9117 FAX022-719-9118）に置くなど、活動方針を盛り込んだ会則も決められた。平賀司教は、ミサの中で、「教会法では、信徒が教会を支えるためにこのような会をつくることを認めています。ありがたいことです」と感謝のことばを述べた。会では、趣旨に賛同する方を会員として募り、活動に参加してくれることを願っている。

講演要旨

近代における自然概念の誕生とガリレオ
世界天文年ガリレオ400周年に際して

原田 雅樹



ロゴス研究
所主催の講演
会が7月
日(日)、北
仙台教会信徒
ホールで行われた。

講師はドミニコ会の司祭で仙
台百合女子大学准教授の原田
雅樹師【写真】。

今年「世界天文年」で、イタ
リアの科学者ガリレオ・ガリレイ
が初めて望遠鏡を夜空に向け、宇
宙への扉を開いた1609年か
らの節目の年でもあり、タ
イムリーな話題提供となった。

ガリレオ以降の近代科学は科
学と倫理(哲学)が分化し、「目
的に向かう意味」を喪失した。

今後、世界にどのように意味を
つくっていくのか。現代における
科学の意味を問うためにも、もう
一度ガリレオに向き合い、その核
心となる「ガリレオの自然観」が
誕生するまでの経緯を、ハンナ・
アーレントの「人間の条件」を資
料として論が展開された。

「自然とは何か」。日本人にとっ
ては、野原や景色がイメージされ
たり、「自ら」とか「ありのまま」
等のことが浮かぶが、日本と西
洋の自然観には相違がある。

例えば、日本に「自然主義文学
が入ってきたとき、私生活をさら

けだす意味にとらえられた。フラ
ンスのゾラが目指したのは、自然
科学を取り入れた自然科学であ
ったのである(自然科学を前提に
理解していたとして、森鷗外の名
はあげられる)。

こうした西欧の自然観の背景
には、古代ギリシャから中世にい
たる自然観がある。

ガリレオ以前の中世の自然観
はアリストテレスの自然哲学に
ある。ギリシャ語フィジス
(Physics)の訳語であるラテン語
のナトゥーラ(natura)は「本性」
と訳され、今日われわれが自然と
して用いていることはネイチャ
ー(nature)の背景になっている。

このネイチャーの中には、人間が
いかに生きるかという倫理的な
問い(Meta)と、どのように(How)
という事実を問う科学的問題が
包括されていた。そこでは一つの
問題として取り扱われていた価
値問題と事実問題が分断されて
いく。その分岐点がガリレオなの
である。科学と倫理(哲学)を分
化させた起源がガリレオの自然
観にある。

ガリレオの自然観とは、「自然
法則が数学によって表現できる」
ということにある。

「哲学は目の前の自然(宇宙)と
いう大きな書物に書かれており、

その書物は数学という言葉で書
かれている。その文字は三角形
円、その他の幾何学的図形であっ
てこれらの手段がなければ、人間
の力ではその言葉を理解できな
い」というガリレオの考え方であ
る。こうした考えは、それ以前に
プトレマイオスやコペルニクス
によって提出されていたが、ガリ
レオは先駆者たちの説を「確認す
る」ことによつて、以前には靈感
によつて得た思弁にすぎなかつ
たものを立証可能な事実として
提出した。

こうして、中世以来の人間中心
の自然観を打破して、ガリレオの
自然観は哲学にも影響を及ぼし
ていく。物理学の生みの父でもあ
るガリレオは、実験科学者である
と同時に自然現象を理想化、理念
化しつつ、それを数学という手段
を用いて成功した人物であった。

一方、自然と精神の二元論、
及び科学の記号化・シンボル化
を引きおこしたガリレオの自然
科学と幾何学はデカルトの解析
幾何学と哲学に影響を与え、デ
カルトは近代哲学の父となった。
その結果、ガリレオ、デカルト
以降は「〜のために」という目
的論がなくなっていく。それま
で人間中心であった宇宙は意味
をもつていたが、目的論を失っ
た。「目的論を失うこと」が当
時の教会の恐れであった。ガリ
レオ以後の理論は機械的な因果
関係の説明で展開していく。

物理学を専門とする原田師の
展開は難解な内容にも思えたが、
9・、日本初の無人補給機H
TVの打ち上げにも連動する内
容であった。そして、科学に依存
しながら生み出された技術によ
つて、自然が作り変えられ、宇宙
の原理が地球にもたらされるこ
とで、人間の生きていく地球環境
という条件から人間自身が疎外
されてしまったと考えるユダヤ
人の女性政治学者ハンナ・アー
レント(フツサールの孫弟子)のこ
とばが響いてくる。

最近、教会が地球環境問題の指
針を提示した「教会の社会教説」
の方向性を学ぶきっかけにもな
った講演であった。
(聖ドミニコ女子修道会
r. 佐藤 廣子)

司祭異動

平賀徹夫司祭は、 月1
日付で、仙台教区司祭人事
異動を発表した。
福島県
田中 丈夫



福島県南協力
(前任サバティカル)
なお、住居は須賀
川教会



併せて、岩手県の教会各地を司
牧してくださった、ヨセフ・フー
ゲントブレレル師(ベトレヘム宣教
会)はスイスへ帰国されました。
長い間、本場にあり
がとうございました
た。ヨセフ師の今後
の生活に神様の豊
かなお恵みがありますようにお
祈りください。

地球は水不足です

水不足による被害で地球の4分の1の
人が苦しんでいます。不衛生な水しか得られない
ため、毎年200万人以上の子どもが死亡してい
ます。水を巡る国際紛争も起きています。

日本は水道をひねればすぐに水が出てきて飲
むことができます。それでももっと上質の水を求
め、石油より高価なペットボトルの水を輸入して
います。

日本は農作物を輸入することでも、外国の畑で
大量の水を消費している。

「神のたまものである水は生存に不可欠です。
すべての人が、水に対する権利を持っている」の
です。(教会の社会教説484)「いのちの重要性と
人間の権利と尊厳」(同)を大切にするためにも
“もったいない”の精神で、水を大事に使いまし
ょう。(Sr.相良)

地球を大事にする会



招かれた者の責任を考える

仙台カトリック壮年の会黙想会

9月21日(月)、仙台市宮城野区光が丘にあるラ・サール修道院で平賀徹夫司教の指導のもと黙想会を開催、仙塩地区各教会から33名の壮年が参加した。

修道院の聖堂で行われた黙想は【写真】、聖歌「私たちは神の民、その牧場の群れ」で始まった。

平賀司教は、



「私たちは、神から呼ばれた、呼んでいただいた群れです。私力ではなく、聖霊の力に導かれて働くのです。教会憲章は、「教会は、キリシタンから呼びかけが、ペトロや、パウロのように劇的な出来事があったわけではありません。神からの呼びかけが、ペトロや、パウロのように劇的な出来事があったわけではありません。何のために呼ばれたのでしょうか。信徒徒使徒職のため、福音を告げ知らせるためです。私たちは、それを義務としてではなく、神の望みが実を結ぶように、せざるを得ない気持ちの表れとして努力します。」

ハンセン病問題を考える①

国により強制的に隔離され苦しめられたハンセン病の元患者が暮らす国立療養所多摩全生園を会場に9月・日に行われた「ハンセン病を知りたい青年交流会」に御供、芳賀の両名で参加してきました。5月に鹿児島で開催されたハンセン病市民学会(教区報 号を二覧下さい) 青年学生部会が主催している中で、今年で5回目。北海道や三重県などから、代約 名が参加しました。

初日は園内フィールドワーク。以前は警察OBの見張り役がいて入所者を取り締まっていたそうです。図書館は、元患者が資料を集めてつくり、ハンセン病問題の研究者はかならずここに来るそうです。教会やお寺が集まるエリアもあり、宗教は心のよりどころとなる一方で、隔離され、差別される現状をただ受け入れ、許さないと、傷つけられた人が傷ついたままにすることになっていなかっただか、との話もありました。

一日目は療養所から社会復帰された退所者の方のお話を伺いました。ひとり、小学6年生のときに病気が分かり、担当の先生から、竹の棒で突かれながら「帰れ」「何も触るな」と学校から追い立てられ、机も椅子も燃やされてなくなっていたとか。社会に出た

後、自分の病気を打ち明けたとき「人をみてつきあってるんだ」と言ってくれる人がいたことに救われたそうです。もうひとりの方は「今でも自分の名前を出すのが怖い。ハンセン病患者だったことを知られるのが嫌で、親しくなる前に距離をとってしまう」。在園 年になる方は「姪や甥が近くにいるが、ここにいることも、この病気のことも話せない。田舎に帰ったとき、みなが寝静まってから弟とだけ話します」。

参加者の「病気が人を傷つけるのではなく、人が傷つけるのだと、感じました」という言葉が忘れられませんが、(仙台教区人権を考える委員会 御供 真人)

ラ・サール修道院食堂のマリア像



状態を知り、将来に向けて考えよう」と、仙台教区の信徒数の推移や、教会の収入・支出状況、仙台市内の信徒分布図、などグラフ化された資料を見ながら、資料を作成した山田務氏(畳屋丁教会)の説明を聞き、話し合った【写真右】。

特に、信徒の高齢化と司祭の減少が話題となった。青年層を育てることの必要性や、定年を迎え仙台に戻ってきた人や、第二の人生を教会活動に関わろうとしている人の取り込みを考えようなどと話し合った。

司祭の減少については、確かに憂慮すべき問題ではあるが、世界的な視野で見れば、司祭ひとり何千人の信徒を司牧しなければならぬという国もあり、数だけで判断はできないものの、まだまだ恵まれている方だともいえる。

司祭には、司祭でなければ出来ないミサ、ゆるしの秘跡に専念していただくため、信徒が出来ることは信徒が役割を分担して受け持つように考えていかなければならないということに話が及んだ。

司教から、「壮年の方々に、それぞれ社会のなかでどんな専門性をもって活躍されたか、手伝っていただけるならどんな仕事を誰にお願いしたらいいのかという情報が欲しい」との要望もあり、こうした情報を集約する必要性を確認した。

黙想会はミサをもって終了し、その後、希望者参加の夕食会となり、アルコールも入って司教を囲み忌憚のない意見交換となった。

多くの課題が提示され、各自の立場で神に招かれた者として何をしなければならぬかを考え、勇気をもって取り組んでいくことを自覚させられた一日であった。

各地から

岩手県 二戸教会

二戸教会50周年記念ミサ

9月 日(日) 晴天の下、岩手県二戸カトリック教会の設立 周年記念行事が行われた。二戸カトリック教会は木造一階建ての小さな教会です。

記念ミサは平賀徹夫司教の主司式により、梅津明生神父、ミゲル神父の共同司式で行われた。

畳ほどの小さな和室の聖堂は県内外からお祝いに来られた人のお客様で満杯になった。

ミサ後はお弁当を囲んでの懇談会、そして二戸教会の故シュトルム神父の功績を偲んで、神父が植えたスイスの樹木がある二戸大平球場周辺のシュトルムロードを散歩した。

この日のため二戸では1年も前から、教会敷地の環境整備担当、当日7キロのお漬物作り担当、会計庶務担当等々、献身的準備に励んだ。司教様をはじめ神父様方、そしてお祝い下さった皆様に感謝。(ノトブルガ斉藤)



二戸教会50周年ミサに参加
四ツ家・志家教会の方々と共に、マイクロバスで二戸教会へ。

二戸教会は、植物の絵、聖歌の作曲、植林などで知られた故シュトルム師のおられた教会で、道中は師と親交のあった黒沢勉氏のリードで、師の作曲された聖歌をいくつも歌い、また師と黒沢氏との関わりなどの話題で、退屈する暇もなく二戸に着く。庭のあちこちに木像が立ち、大きな実の付いたウバユリが目を楽しませてくれた。

平賀司教は説教で、年をなぜ祝うのかについて、レビ記に「主はモーゼに仰せになった、年目の年を祝え、解放を祝え」と書いてあると話された。こんな深い所に起源があったのかと感心。また、

教会は何のためにあるかについて、第2バチカン公会議で、「教会とは神との交わりと全人類の一致の道具」と定義されており、これからもこの目的に進んでいこうと呼びかけられた。

岩手県

東仙台教会への巡礼

月4日、マルコ神父を団長とする四ツ家教会の巡礼団

名は、盛岡を出発し黄金色に輝く田園風景を見ながら東北道を南下、巡礼先の東仙台教会に到着した。急勾配の階段を登ると教会の皆さんが笑顔で迎えてくれた。光に満ちた明るい教会、履き替えなしでしかもバリアフリー設計になっていたことに感動。

初めに、佐藤教会委員長の歓迎の挨拶をいただき、我々巡礼団のために作成した資料に基づいて教会組織や各部門の活動内容について役員や担当部長から説明を受けた。司祭に頼らず自分達で教会を運営してきた歴史を感じ、司祭や常勤の事務職員に頼った教会運営から転換しようとしている四ツ家教会にとって大変参考になった。



マルコ神父司式によるミサの後、梅津神父も合流し教会で昼食、美味しい手づくりのみそ汁や果物、コーヒーも添えていただいた。食後は3班に分けて東仙台教会の方が引率して司教館、司祭の家、オタワ愛徳修道院、ラ・サール会修道院を回った。モダンな建築のオタワ愛徳修道院、ラ・サール会修道院、司教館は梅津神父に案内していただき、立ち去りがたく予定時間をオーバー。

最後の巡礼地のカトリック鶴ヶ谷墓地は小高い丘にあり遠く海が見える素晴らしい環境。マルコ神父にお祈りをしていただき、聖歌「いつくしみふかき」を歌い、持参した花を司祭、各修道会、兄弟姉妹、無縁の墓に捧げた。兄弟姉妹の墓はこれからの墓のあり方を考える上で示唆を与えてくれた。(湯口靖彦)

路上で亡くなられた方を偲ぶ会

ホームレス自立支援事業を行っているNPO法人・萌友(芳賀ヒロ子理事長)では9月23日(水)北仙台教会で、路上などで亡くなられたホームレス仲間11名の追悼式を行った。レイモンド・ラトウル神父司式で追悼ミサが行われ、36名のホームレスの方々と協力者を合わせて60名が参列した。ミサのなかで、ホームレスの全員が元気で過ごせるよう司祭から祝福を受けた。

今年亡くなった2名のうち、Kさんは、バイパスの橋げた下で小屋暮らしをしていたが、梅田川の河川敷で行き倒れになっていたのを通行人が発見された。遺体の引き取り人がいなかったため、仙台市の共同墓地に埋葬された。アパートで急死したAさんの場合は岩手県から姪夫婦が駆けつけてくれ、無事に故郷のお墓に納骨された。

ミサ後、信徒ホールで、熱々のうどん、そばと、朋友の入居者が朝早く作ってくれた稲荷ずしで偲ぶ会となった。

長引く不況で、路上生活を始める人が仙台でも増えている。萌友では、カトリック正義と平和仙台協議会(正平協)と協力しながら、ホームレス支援活動を続けている。皆様のご支援をお願いします。連絡先/022-719-9117 (渡辺清)

活動紹介 元寺ボランタールの会

元寺小路教会

「声をかけてほしい」、「手を貸してほしい」と願っている人がいる一方で、「何か手助けしたい」、「何か聞いてあげたい」と思っている方もいます。

それらに答える窓口があったらとの願いをもった人々が、1995年7月1日に当時のモデルラトル首藤神父の指導のもと「私たちが身近に出来ることをしましょう」と『元寺ボランタールの会』をつくりました。

最初の世話人代表は佐藤朝子さんでした。現在は松岡敏子さんです。

会員は現在28名です。例会は毎月初金のミサ後に信徒ホールで行っています。



発足から14年が経ち、会員も高齢者が多くなり、会の行動は「ムリシナイ、がんばらナイ、ハリキラナイ、でもアキラメナイ」と楽天的をモットーにしています。

会の活動内容もいろいろ変わってききましたが、現在行っているのは、教会に来られない人へのお便りと印刷物の送付、病人やお年寄りの方々への訪問、また東北白鳥会（東北6県低肺者団体）の福祉プラザで行われる定期総会やチャリティーコンサートへの準備、受付、案内などのお手伝いです。

毎月一回定期的に訪問している暁星園（特別養護老人ホーム）では、傾聴奉仕や、五目並べ等の相手をしています。

クリスマスには皆で作ったプレゼントを暁星園と他の施設に届けています。

また病院で患者さんが利用する布（木綿のシャツ、浴衣などの洗濯をした柔らかい古布）の寄付を受け付けています。

また教会バザーには、本職のそば屋さんから仕入れたうどんの出店をし、みんなから喜ばれています。手作り品の販売も好評です。

私たちの会は小さく非力ですが、今年の四旬節キャンペーン『この最も小さい者の一人にしたことは、私にしてくれたこと』（マタイ25・40）のみことば

を忘れない者の集まりでありたいと思っています。
【写真】バザーで販売する手作り品を作る会員（千葉レイ子）

レザークラフト教室

いわき教会

昨年1月、子年なのでネズミのブローチ作りから始まったレザークラフト教室【写真】。

でもご活躍の鈴木一子（かずこ）先生に、信徒間の親睦のためボランティアで講師をして頂いています。生徒はまったくの初心者ばかり。鈴木先生に手取り足取り教えていただきながら月1回のペースで続いています。

トンボのブローチ、カードケース、財布、そして今はバッグに挑戦！ クリスマスには今までの作品を展示して皆様に成果を見て頂く予定です。
(菅野晶子)



告知板

★仙台台ゴス講座
日時／11月7日(土)

14時～15時30分
会場／北仙台教会 信徒館
講師／アントニオR. Pujop
演題／筆と剣

★公開公演会
「大石邦子さん講演会」
日時／ 月 日(土)

会場／元寺小路教会
演題／生きること・愛すること
——車椅子から語る熱い思い——
主催／「大石邦子さん講演会」実行委員会

★青年の集い
テーマ／待降節を迎えて
～みことばを深く味わう～
日時／ 月5日(土) 時半～
6日(日) 時～

対象／青年男女
講話／平賀司教
場所／ドミニコの家（仙台市青葉区幸沢青野木257-1）
申込／聖トミニコ修道院 r.米満
a / el 022-394-4225
Eメール

ed.yunoki@outai1.co.jp
締め切り／ 月 日(土)
参加費／2千円



新刊案内

「心だけは永遠」

ヘルマン・ホイヴェルス神父の言葉
編著者 土居健郎 森田明／発行 ド
ン・ボスコ社／定価 660円＋税

ヘルマン・ホイヴェルス神父は、イエズス会司祭として1923年に来日し、哲学とドイツ語の上智大学教授として学生を教える傍ら、日本文化への造詣が深く、歌舞伎や狂言の作品を発表したり、多くの人々を神の道に導いた偉大な、しかし、大変やさしい司祭として慕われました。

1977年、急性心不全のため帰天した同司祭をしのび、本書の編著者たちが、昨年、「カトリック生活」誌に「ホイヴェルス神父の言葉」を3回連載したところ、多くの読者からもっとホイヴェルス神父を知りたいとの要望が寄せられ、本書が誕生しました。

人間について、信仰について、文化について、心について、人生について、神さまのことなどの同神父の短い心に響く真摯な言葉が選ばれています。今、あらためて読み直すと、ホイヴェルス神父を知っている人も、本書によって初めて知った人も、魅力的な彼の人柄にひかれることでしょう。

本書の最後には、愛弟子である土居健郎氏が書かれた「ホイヴェルス神父と日本」と森田明氏の「ホイヴェルス神父の横顔」が載せられています。ホイヴェルス神父をまだ知らない人はこちらから読み始めるのもいいでしょう。

仙台教区2008年度 決算概要 -その2-

今回は、仙台教区で宣教司牧に携わって頂いている司祭の生活面が、なにで支えられているかにスポットを当てて報告いたします。

司祭はそれぞれが所属する団体（教区、外国宣教会、修道会）によって、司祭給として受け取る金額や支給内容が異なります。外国宣教会、修道会に所属している司祭はその団体の規則に基づいて支給されています。

仙台教区司祭団に所属する司祭（当教区内の邦人司祭の大半の方々）は、

1. 幼稚園園長等を兼務し、園長給与を受けている方々はその収入による（但し、司祭団会計規則の給与基準を超えた部分は寄付金として教区司祭団会計へ寄付することとなっている・・・後述）。

2. それ以外の司祭へは「司祭団会計」より司祭給が支払われます。

更に、現役を退かれた方々へは「高齢司祭厚生福祉基金」より支給されております。

以下、「教区司祭団会計」と「高齢司祭厚生福祉基金会計」の決算について概況を報告いたします。

○教区司祭団会計収支 2008.4. 1 ～ 2009.3. 31

(単位 千円)

収入の部		支出の部	
1. 負担金収入	44,109	1. 活動研究費	2,458
司祭給負担金	(36,643)	黙想会	(705)
2. 寄付金収入	23,687	2. 運営費	48,244
差額納入金	(19,460)	①人件費	(45,245)
寄付金	(4,226)	司祭給	《 33,368
3. その他収入	879	職員給	《 7,493
4. 財務収入	1,747	②事務費	(2,998)
		3. 他会計繰入支出	3,000
		4. その他	1,008
		5. 財務支出	2,082
合 計	70,422	合 計	56,792

I. 前年度対比

収入の部～負担金収入が2百万円強減少（うち、司祭給負担金3百万円減少）しました。

寄付金収入でも2百万円減少し、収入合計は約4百万円の減少となりました。

支出の部～運営費で約4百万円弱減少（うち、司祭給与で4百万円強の減少）しました。

結果、支出合計は4百万円弱の減少となりました。

以上により 収支差 14百万円(前年同額)が次年度繰越金に加算されました。

*収支差は14百万円の黒字となりましたが、
イ、皆様方の教会からの司祭給負担金が微減少していること。
ロ、司祭数が減って日曜日の集会祭儀の回数が増えていること。
ハ、収支が黒字でも良くない。司祭数が増えて赤字で困るので負担額を増やしてくださいとお願いするくらいが喜ばしい会計である・・・の認識が少ない等の問題を抱えている点に注目ください。

II. 「教区司祭団会計」とは

仙台司教区に所属する、主に邦人司祭の活動および生活面を維持する為の会計です。

本来は、仙台司教区に配置されている全司祭の生活面を教

区が負担すべきははずですが、残念ながら現状では13名の司祭給を負担するのが限度です。外国宣教会・修道会司祭への給与は所属する宣教会・修道会及びその小教区の信徒に負担して頂いているのが現状です。

「収入の部」= 1. 最も大きいのは各小教区教会が負担している「司祭給負担金」です。

2. 次に大きいのは「差額納入金」です。これは、幼稚園長として幼稚園から受け取っている給与が「教区司祭団」の規定の給与額を超えた部分を「差額納入金」としてこの会計に納入するものです。

3. 次に「寄付金」です。これは外部からの寄付金ではなく、司祭が受給した年金の一部です。

司教および教区司祭が受給した年金は以下のようにそれぞれの会計に寄付されることになっています。

○司教および本部付司祭の年金⇒教区本部会計と高齢司祭厚生福祉基金会計へ半々に

○現役司祭が受給した年金⇒教区司祭団会計と高齢司祭厚生福祉基金会計へ半々に

○引退した司祭が受給した年金⇒高齢司祭厚生福祉基金会計へ全額

「支出の部」= 1. 活動研究費は、司教・司祭が一堂に会して、宣教司牧、情報等の交換を図る月一回の「月例会」や「黙想会」等の開催費用です。

2. 運営費は大半が 司祭給与 ですが、4名の職員給与と全体の法定福利費も含まれています。

3. 高齢司祭厚生福祉基金会計へ年3百万円の補助をおこなっています。

○高齢司祭厚生福祉基金会計収支 2008.4. 1～2009.3. 31
(単位 千円)

収入の部		支出の部	
1. 教区司祭 拠出金	720	1. 給付金	4,580
2. 寄付金	8,899	2. 負担金(職員給与分)	3,000
3. 司祭団会計 より	3,000	3. 司祭の家 経費他	2,998
4. その他	955		
合 計	13,574	合 計	10,578

「高齢司祭厚生福祉基金会計」は高齢司祭の病気、災害等の医療費、日常生活の扶助を図ることを目的とした会計であります。昭和51年に創設され、平成10年3月まで 特別献金をお願いし基金をつくりました。その後の原資は

①教区司祭団の司祭より一人毎月3千円が拠出されます。（当年度は 72万円）

②教区司祭団会計より司祭給を受けている司祭で、年金受給している司祭の年金受給額の半分が「受給年金拠出金」として拠出されます。（496万円）

③幼稚園園長等を兼任していた司祭が転任した際受け取った「退職金」も全額拠出されます。（60万円）

④物故司祭の遺贈金や個人寄付金。（332万円）となっています。②～④は寄付金として計上されますが昨年度比2,500万円程減少しました。

給付金は今年度6名の引退司祭に支出されております。

(会計補佐 小守林新策)